

# 令和4年（2022年）知事年頭所感

大阪府知事 吉村 洋文



新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染者が府内で初めて確認されてから間もなく2年となります。当初は未知のウイルスへの対応に苦慮しましたが、府民のいのちと暮らしを守ることを最優先に、府民・事業者の皆さまの多大なご協力をいただきながら、全力で感染防止対策に取り組んできました。昨年も感染急拡大による厳しい時期がありましたが、ワクチン接種の促進等により感染は落ち着いた状況にあります。

ただ、新たな変異株であるオミクロン株が確認されており、感染拡大のリスクは常にあります。引き続き、緊張感を持ってコロナ対策にしっかりと取り組むとともに、府民の皆様には、基本的な感染防止対策の徹底にご理解・ご協力をお願いします。2022年は大阪・関西万博をインパクトに、大阪経済を回復させ、再び成長軌道に乗せていく一年としていきます。

府民のいのちと暮らしを守るため、コロナ対策に万全を期します。

早期に抗体カクテル治療が受けられる体制を整備するなど重症化を防ぐ早期治療体制の拡充や、感染の急拡大にも対応できる必要病床数の確保など医療提供体制の充実を進めていきます。さらに、ワクチンの追加接種（3回目接種）に着実に取り組むとともに、ゴールドステッカーをはじめとした安心して飲食できる環境づくりなど感染防止対策を徹底します。

また、大阪経済の回復に向け、コロナで影響を受けた観光・文化・飲食などの事業者への支援や需要喚起策を実施するとともに、厳しい雇用情勢を踏まえ、再就職支援などの取組みを強化します。

さらに、コロナ禍で府民の暮らしが不安定になっていることから、自殺や貧困、虐待への対応を強化するなど、府民が安心して生活できるセーフティネットを充実させていきます。

今後は、ウイルスとの共存を図りながら、感染防止対策の徹底と社会経済活動の維持の両立をめざします。

コロナ対策を着実に進めながら、大阪経済をV字回復させ、さらなる高みへと導くことで、「世界の中で躍動し、成長し続ける大阪」の実現をめざします。

2025年大阪・関西万博はポストコロナの新たな未来を切り拓くシンボルです。開催まで3年

余りとなった万博の成功に取り組むとともに、世界の課題解決に貢献するSDGs先進都市をめざします。

地元大阪としては、未来の医療や生活を感じる展示により、ワクワクしながら驚きや新たな感動を味わえる参加型の「大阪パビリオン」の発展をめざします。また、万博に先駆け、インターネット上に「バーチャル大阪」を開設しました。今後、大阪の都市魅力を国内外に発信するとともに、万博への来場意欲をかき立てるコンテンツを揃えていきます。

また、万博を一過性のイベントとせずレガシーとして継承していくことが重要です。大阪が持つ強みとポテンシャルを活かしたライフサイエンス・ヘルスケア分野やカーボンニュートラル実現に向けたイノベーションの創出、さらには夢洲地区・うめきた2期地区におけるスーパーシティによる大胆な規制改革を通じて、住民生活の質の向上につながる先端的サービスの実装をめざします。また、万博を契機に、生活・経済圏が一体である兵庫県との連携を進める会議を設置し、大阪・関西の成長に確実に結び付けていきます。

人口減少・少子高齢化が進展する中で、大阪が将来にわたって活気にあふれ、元気なまちであり続ける土台をつくり、未来を切り拓いていくのは若い力です。学校教育においては、ICTを活用した質の向上を実現するとともに、新たに顕在化したヤングケアラーの課題にも取り組み、次世代を担う子どもたちを支え、力を伸ばしていきます。また、4月に開学する全国最大規模の公立総合大学である大阪公立大学では、地域社会から国際社会まで幅広く活躍できる人材の育成に取り組めます。

私の任期も、残すところ一年余りとなりました。これまで、「世界の中で躍動し、成長し続ける大阪」の実現をめざし、G20大阪サミットの開催やIRの誘致、スタートアップ・エコシステムの推進などに全力を尽くしてきましたが、就任当時には予想もしなかったコロナという難題に直面しました。この未曾有の危機を乗り越え、大阪を再び成長のステージに乗せていくことが、私に課せられた最大の使命だと考えています。

そのためには、これまで以上に大阪市との連携をより強固なものとし、府市一体、広域一元化を通じて、東西二極の一極として日本の成長をけん引する「副首都・大阪」の実現につなげていきます。

本年も、府民の皆様の一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお祈り申し上げますとともに、皆様にとって素晴らしい年となりますようお祈りいたします。